

いしかわ広域交流幹線軸整備事業（主）七尾輪島線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

輪島市

興徳寺B遺跡

2011

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

興徳寺 B 遺跡

2011

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は輪島市興徳寺 B 遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は輪島市三井町興徳寺地内である。
- 3 調査原因はいしかわ広域交流幹線軸整備事業（主）七尾輪島線であり、同事業を所管する石川県土木部道路建設課が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成 21（2009）年度から平成 22（2010）年度にかけて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は、石川県土木部道路建設課が負担した。
- 6 現地調査は平成 21 年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。
期 間 平成 21 年 5 月 11 日～同年 6 月 29 日
面 積 950m²
担当課 調査部県関係調査グループ
担当者 土屋宣雄（専門員）、荒木麻理子（主任主事）
- 7 出土品整理は平成 22 年度に実施し、調査部県関係調査グループが担当した。
- 8 報告書の刊行は平成 22 年度に実施し、調査部県関係調査グループが担当した。執筆・編集は荒木麻理子（調査部県関係調査グループ）が行った。
- 9 調査には下記の機関・個人の協力を得た。
石川県土木部道路建設課、奥能登土木総合事務所、輪島市教育委員会（五十音順、敬称略）
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T.P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3) 出土遺物番号は挿図と写真で対応する。
 - (4) 遺物実測図については須恵器の断面を黒塗りにした。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 出土品整理・報告書刊行	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 遺構と遺物	5
第1節 調査の概要	5
第2節 遺構と遺物	5
第4章 まとめ	14

挿図目次

第1図 興徳寺B遺跡調査区位置図 (S=1/1,500)	1	第7図 基本層序2・遺構実測図2 (S=1/60)	8
第2図 興徳寺B遺跡の位置	2	第8図 遺構実測図3 (S=1/60)	9
第3図 周辺の遺跡 (S=1/50,000)	4	第9図 遺構実測図4 (S=1/30,1/60)	10
第4図 グリッドの設定 (S=1/1,000)	5	第10図 遺構実測図5 (S=1/60)	11
第5図 調査区全体図 (S=1/250)	6	第11図 遺物実測図1 (S=1/3,1/6)	12
第6図 基本層序1・遺構実測図1 (S=1/60)	7	第12図 遺物実測図2 (S=1/3)	13

表 目 次

第1表 周辺の遺跡	4	第2表 遺物観察表	14
-----------	---	-----------	----

図版目次

図版1 遺構1	図版3 遺構3
図版2 遺構2	図版4 出土遺物

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

本調査は、石川県土木部によるいしかわ広域交流幹線軸道路整備事業（主）七尾輪島線を原因とする。施工区域内には周知の遺跡である興徳寺B遺跡が存在しており、平成19年12月の石川県教育委員会文化財課（以下文化財課）による試掘調査をうけた、石川県土木部道路建設課（以下道路建設課）と文化財課による協議の結果、工事の影響が及ぶ950㎡について、発掘調査を実施して記録保存を行うことになった。道路建設課は文化財課に発掘調査を依頼し、文化財課は（財）石川県埋蔵文化財センター（以下埋文センター）に発掘調査を委託した。調査は調査部県関係調査グループが担当した。

第2節 調査の経過

平成21年4月15日に現地において奥能登土木総合事務所・文化財課・埋文センターとの間で協議が行われ、調査区、調査方法、仮設建物設置場所等の確認を行った。5月11日に仮設建物の建上げ、12・13日に調査区南半の表土除去を行い、13日から作業員を投入し、15日に遺構検出・掘削作業、20日に実測作業を開始した。26・27日には基準杭設置のための水準点・基準点測量を行い、6月1・2日に調査区内にグリッド杭を設置した。5月27・28日には調査区北半の表土除去を行い、6月3日より調査区北半の遺構検出・掘削、4日に実測作業を開始した。18日に空中写真測量を実施し、補足調査の後22日に現地引き渡しを行い、29日に機材を搬出して現地調査を終了した。

◎調査体制（平成21年度）

調査期間	平成21年5月11日～同年6月29日（現地調査）
調査主体	（財）石川県埋蔵文化財センター（理事長 中西吉明）
総括	黒崎宰作（専務理事）
事務	栗山正文（事務局長）
総務	釜利利雄（総務グループリーダー）
経理	谷内孝夫（総務グループ専門員）
調査	湯尻修平（所長）
	三浦純夫（調査部長）
担当	伊藤雅文（県関係調査グループリーダー）
	土屋宣雄（県関係調査グループ専門員）
	荒木麻理子（県関係調査グループ主任主事）

第3節 出土品整理・報告書刊行

平成22（2010）年度に、調査部県関係調査グループにより、出土品整理が行われた。整理内容は、遺物の実測・トレースと、遺構実測図のトレースである。また、原稿執筆ならびに報告書の刊行も同年度に県関係調査グループにより行われた。

◎整理体制（平成22年度）

整理期間	平成22年8月9日～同年8月13日
整理主体	（財）石川県埋蔵文化財センター（理事長 竹中博康）
総括	橋本 満（専務理事）
事務	栗山正文（事務局長）
総務	浅香繁晴（総務グループリーダー）
経理	谷内孝夫（総務グループ主幹）
整理	三浦純夫（所長）
	福島正実（調査部長）
担当	伊藤雅文（県関係調査グループリーダー）
	土屋宣雄（県関係調査グループ専門員）
	荒木麻理子（県関係調査グループ主任主事）
	小林直子（県関係調査グループ主任技術員）
	山口 桂（県関係調査グループ嘱託）



第1図 興徳寺B遺跡調査区位置図（S=1/1,500）

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

興徳寺B遺跡は石川県輪島市三井町興徳寺地内に所在する。県の北端、日本海に突出する能登半島の北岸部に位置する輪島市は、平成18(2006)年2月1日に隣接する鳳至郡門前町と合併して現在の市域となった。東は珠州市・能登町、南は穴水町・志賀町、北と西は日本海に接する。また、北の沖合には七ツ島・舳倉島があり、沿岸漁業の拠点となっている。市域の大部分が山地で、北部では能登最高峰の高洲山(567m)をはじめ、宝立山、鉢伏山、佐比野山などの標高約400m級の山々が連なり、これらの険しい山容をぬうようにして河川が北流して日本海に注ぎ込み、それらが形成した小規模な沖積低地に集落が展開する。市域東部では南志見川、町野川流域、市街地を流れる鳳至川、河原田川流域で集落の集中が見られ、丘陵地域では小河川の谷あいに見られる樹枝状平地に集落が散在するあり方となっている。市域西南部の旧門前町域では、高爪山、高塚山、サビヤ山、番場山の山地が続き、これらの山地から日本海に注ぐ皆月川、深見川、八ヶ川、阿岸川、南川、仁岸川が形成した東西に伸びる沖積平野に、集落の多くが展開している。



第2図 興徳寺B遺跡の位置

興徳寺B遺跡のある三井地区は、穴水町と輪島市街地とのほぼ中間に位置する。蛇行しながら北流する河原田川沿いとその支流の仁行川、中川に沿って三井町仁行、本江、中、渡合、興徳寺、長沢、漆原、小泉、細屋、新保、市ノ坂、洲衛、内屋などの集落が点在している。七尾北湾にのぞむ穴水町と輪島市街地を南北に結ぶ主要地方道七尾・輪島線に沿って河原田川が北流し、七見川、小又川が南流している。これらの河川は洲衛、市ノ坂付近を分水嶺として、能登半島特有の低丘陵性山地を開析しながら、樹枝状の散在的な狭小な平野を形成し、蛇行しながら日本海に注ぐ。周辺の山地は標高200m前後を測り、樹枝状平野および小谷に存する集落は、ほぼ海拔100m前後の高さにある。本遺跡は河原田川右岸の段丘上に立地する。

第2節 歴史的環境

興徳寺B遺跡(1)が所在する輪島市三井町には、縄文時代から近世の遺跡が点在している。

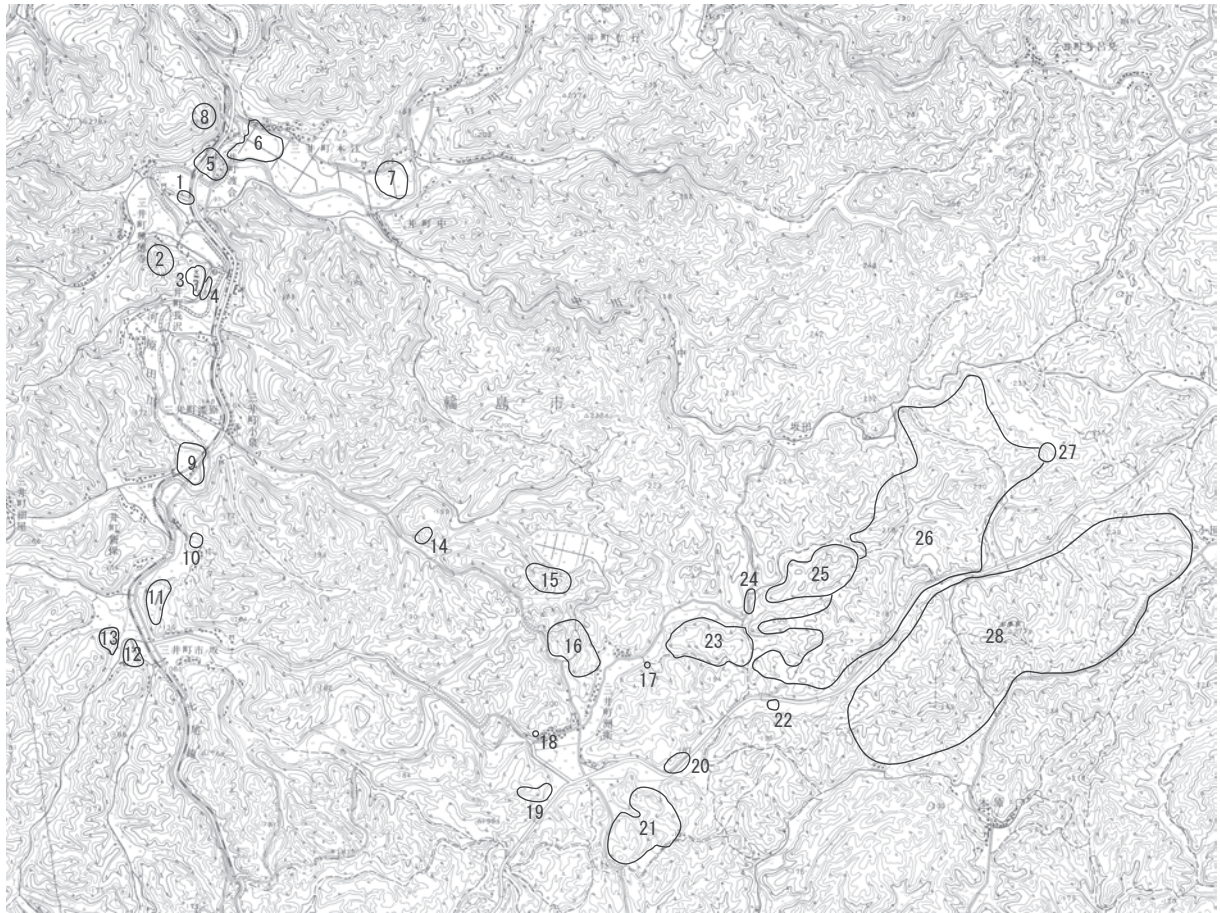
縄文時代の遺跡は、興徳寺遺跡(2)や、渡合遺跡(5)、三井新保遺跡(9)、市ノ坂ヤマザキバナ遺跡(12)が知られている。これらの遺跡は河原田川流域の舌状丘陵上に点在し、そのほとんどが、平安時代、中世の遺跡と重複或いは近接したものである。三井新保遺跡では、昭和57(1982)年に石川県立埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われ、縄文時代前期後葉、中期後葉の遺構・遺物のほか、古代の須恵器窯跡や、平安時代の遺構・遺物も検出されている。海岸沿いに立地する縄文時代の集落遺跡が多い能登地方にあって、内陸部に立地する三井新保遺跡は貴重な調査事例となっている。

古墳時代の遺跡では、三井美登里ヶ丘遺跡(3)、興徳寺横穴群(4)が知られる。三井美登里ヶ丘遺跡は、丘陵部に営まれた集落遺跡で、昭和23(1948)年、三井中学校の敷地造成工事の際に発見され、弥生時代終末期から古墳時代初頭の遺物が採集されている。その東方斜面に位置する興徳寺横穴群では、7基の横穴が確認されており、そのうち第7号横穴は、昭和54(1979)年に石川県立埋蔵文化財センターによって調査が実施され、玄室の奥行1.9m、中央部幅2m、中央部最大幅1.3mの規模を持つことが判明している。遺物は検出されなかったが、横穴の形態等から、7世紀後半の年代が与えられている。

輪島市域は古代、能登国鳳至郡に属しており、『倭名類聚抄』の同郡小屋(おや)郷・待野郷域に比定される。『日本後紀』に「大同三年冬十月丁卯。廢能登国能登郡越蘇・穴水。鳳至郡三井・大市・待野・珠洲等六箇駅。以下要也。」とあり、そのうち輪島市域に関連するのが三井・大市・待野の三ヶ駅である。三井・待野(現町野)についてはそのままの地名が現存し、三井駅については現在の三井町本江周辺が想定されている。遺跡では、井ブタ遺跡(10)、三井小泉遺跡(11)、市ノ坂テンジンウワノ遺跡(13)、洲衛窯跡西支群(19)、洲衛窯跡東支群(22)などが知られる。三井小泉遺跡は、昭和60(1985)年に石川県立埋蔵文化財センターによる調査で、平安時代前半期の集落跡が確認され、掘立柱建物10棟のほか、井戸や土坑などが検出された。なお、洲衛窯跡西支群、洲衛窯跡東支群が所在する洲衛地区は、地名の「洲衛(すえ)」の名にあるように、須恵器の原料である粘土が近隣で産出されたため、古代においては須恵器の生産地であり、調査により平安時代中期の資料を得た。また、洲衛地区は、「海藻状水田」「樹枝状水田」と呼称される狭小な谷平野の見られる地域であり、須恵器の窯跡以外にも製鉄址が存在するほか、中世～近代の炭窯跡も多数分布しており、洲衛炭窯跡A支群(26)、能登空港関連遺跡群(28)などが調査されている。

中世の河原田川上・中流域一帯から穴水町、能登町の一部を含む地域は、大屋庄と呼ばれる広大な荘園であった。大屋庄は『倭名類聚抄』にある鳳至郡小屋郷を継承すると見られ、鎌倉時代初期には、鳳至郡の東保(南志見村を含む)、西保と鹿島郡の穴水保から構成されていたが、鎌倉時代末期には「大屋庄十箇村」と言われ、三井保、穴水村、山田村、光浦、深見保、内浦、鳳至院、西保、東保、南志見村が含まれていた。遺跡では、興徳寺B遺跡、渡合遺跡、本江姫ヶ城跡(8)、洲衛中世墳墓(18)などが知られる。本江姫ヶ城は、河原田川と仁行川との合流地点に位置し、昭和60(1985)年、石川考古学研究会による分布調査で、堀切や曲輪と見られる平坦面などが確認されている。

第2節 歴史的環境



第3図 周辺の遺跡 (S=1/50,000)

番号	名称	所在地	種別	現状	立地	時代	備考	県遺跡番号
1	興徳寺B遺跡	輪島市三井町興徳寺	散布地	畑地、山林	平地	中世		04010
2	興徳寺遺跡	輪島市三井町興徳寺	散布地	畑地	丘陵	縄文	磨製石斧単独出土。	04009
3	三井美登里丘遺跡	輪島市三井町興徳寺	散布地	校地	丘陵	縄文、古墳	1948年四柳嘉孝氏調査	04008
4	興徳寺横穴群	輪島市三井町興徳寺	横穴墓	山林	丘陵斜面	古墳	市指定史跡。1～7号横穴。1974年県教委調査(7号横穴)。1979年県立埋文センター調査(1号横穴)。	04007
5	渡合遺跡	輪島市三井町渡合	散布地	畑地、水田	丘陵	縄文、平安	1991年県立埋文センター調査。2005年(財)県埋文センター調査。	04011
6	本江遺跡	輪島市三井町本江	散布地	畑地、水田	丘陵	古墳、奈良、平安、中世		04013
7	本江宮ノ下遺跡	輪島市三井町本江	散布地	水田	平地	平安、中世		04014
8	本江姫ヶ城跡	輪島市三井町本江	城跡	山林	丘陵	中世	市指定史跡。付近で磨製石斧単独出土。	04012
9	三井新保遺跡	輪島市三井町新保	散布地	畑地	平地	縄文、奈良、平安、中世	1982年県立埋文センター調査。	04006
10	井ノ下遺跡	輪島市三井町井ノ下	散布地	畑地	丘陵	平安		04005
11	三井小泉遺跡	輪島市三井町小泉	散布地	宅地	丘陵	縄文、奈良、平安	1985年県立埋文センター調査。1991年輪島市教委調査。	04004
12	市ノ坂ヤマザキバナ遺跡	輪島市三井町市ノ坂	散布地	畑地	丘陵	縄文		04003
13	市ノ坂テンジンウワノ遺跡	輪島市三井町市ノ坂	散布地	畑地	丘陵	平安		04002
14	洲衛タカラA遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳		04015
15	洲衛炭窯跡B支群	輪島市三井町洲衛	炭窯跡	山林	丘陵	不詳	能都町組合遺跡例に類似するもの4基以上。	04016
16	洲衛タカラB遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳		04017
17	洲衛大倉羅遺跡	輪島市三井町洲衛	散布地	水田	丘陵裾	平安		04018
18	洲衛中世墳墓	輪島市三井町洲衛	墳墓	墓地	丘陵裾	中世		04019
19	洲衛窯跡西支群	輪島市三井町洲衛	窯跡	山林	丘陵斜面	平安	旧洲衛1号窯跡(市指定史跡)を含む。	04020
20	洲衛窯跡中支群	輪島市三井町洲衛	窯跡	山林	丘陵斜面	不詳	旧洲衛2号・3号窯跡を含む。	04021
21	洲衛タカラC遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳		04022
22	洲衛窯跡東支群	輪島市三井町洲衛	窯跡	水田	丘陵裾	平安	1992年県立埋文センター調査。	04023
23	洲衛タカラD遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳		04024
24	洲衛タカラE遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳	3基以上。1981年現地確認調査。	04025
25	洲衛タカラF遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳		04026
26	洲衛炭窯跡A支群	輪島市三井町洲衛	炭窯跡	山林	丘陵	中世、近世、不詳	600基前後の存在が予想される。1990、92～94年輪島市教委調査。1990年県立埋文センター調査。	04027
27	洲衛旧開拓地遺跡群	輪島市三井町洲衛	散布地	山林	丘陵	縄文中期	1999年輪島市教委調査。	04028
28	能登空港関連遺跡群	輪島市三井町洲衛	炭窯跡	山林	丘陵	中世、近世、近代	1997年県立埋文センター、98年(財)石川県埋文文化財センター発掘調査。	

第1表 周辺の遺跡

第3章 遺構と遺物

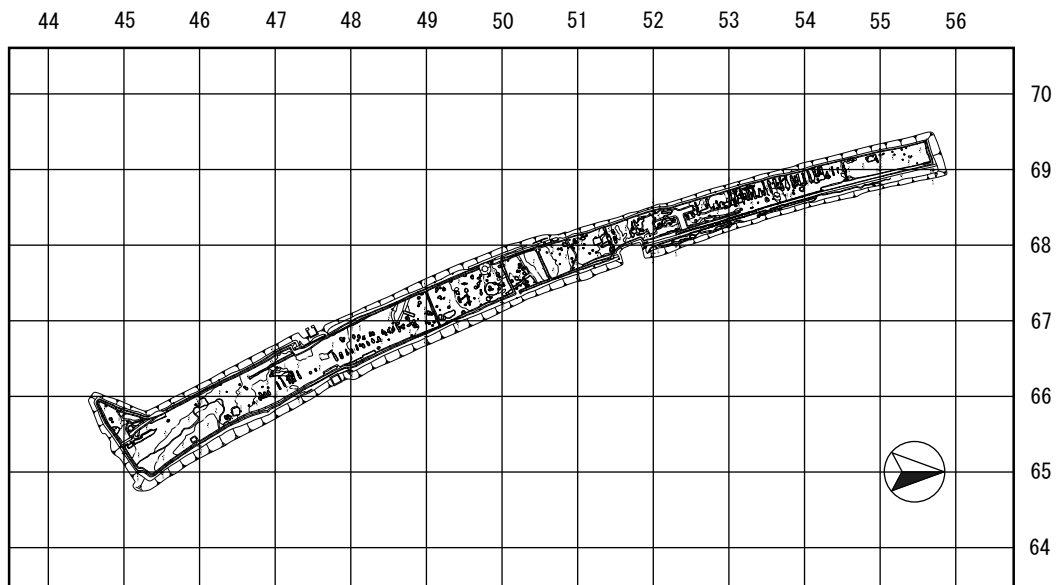
第1節 調査の概要（第4図）

調査区の現況は平成13（2001）年に廃線となった旧のと鉄道七尾線（穴水・輪島間）の線路敷部分であった。調査区は面積950㎡で、幅約5~14.5m、延長約117mに及ぶ狭長なトレンチであり、全域に線路敷きの碎石や、保線関係の構造物・ケーブル等の設備の残骸などが残されているほか、多くの箇所、線路敷設や調査区を横断する農業用水等に関連する攪乱を受けている。

調査にあたり、平面直角座標第Ⅶ系に準拠した、10m方眼のグリッド（第4図）を設定し、北に向かって北東交点の杭の名称をグリッド名にしている。

調査区の基本層序は、旧鉄道に伴う攪乱や客土の下に、黄橙色および黄褐色、緑灰色系シルトの地山（ベース）が存在する。遺構の覆土は、黒色および黒褐色系土である。

調査区は検出面レベルで92.10~92.65mを測る。中央部と南部に鞍部が存在し、緩やかな起伏を繰り返しながら南北に傾斜する地形である。遺構密度は総じて薄く、遺構に伴う遺物は少量ながら、概ね10世紀前半と、12世紀中葉~13世紀前半のもので占められる。

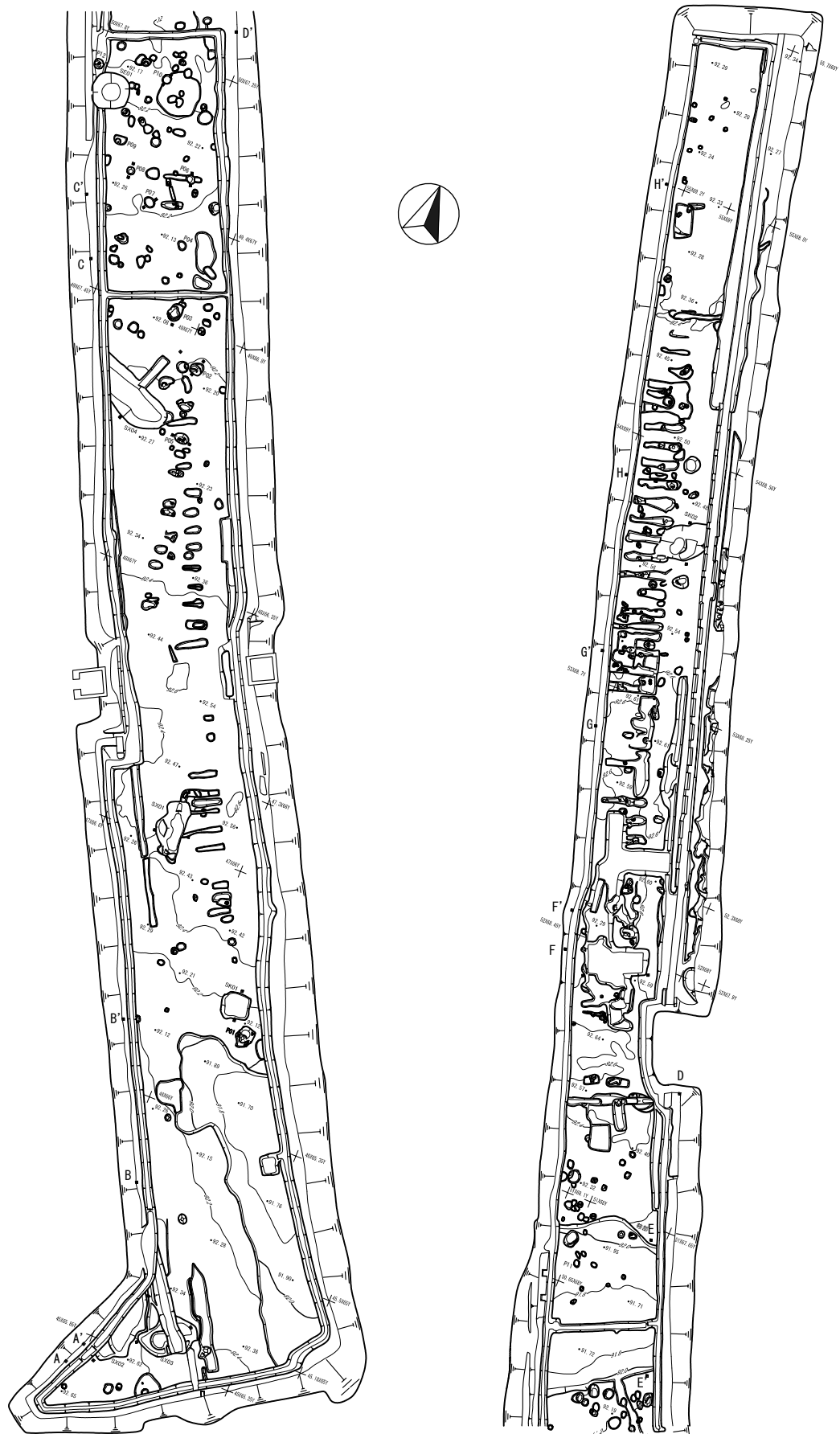


第4図 グリッドの設定 (S=1/1,000)

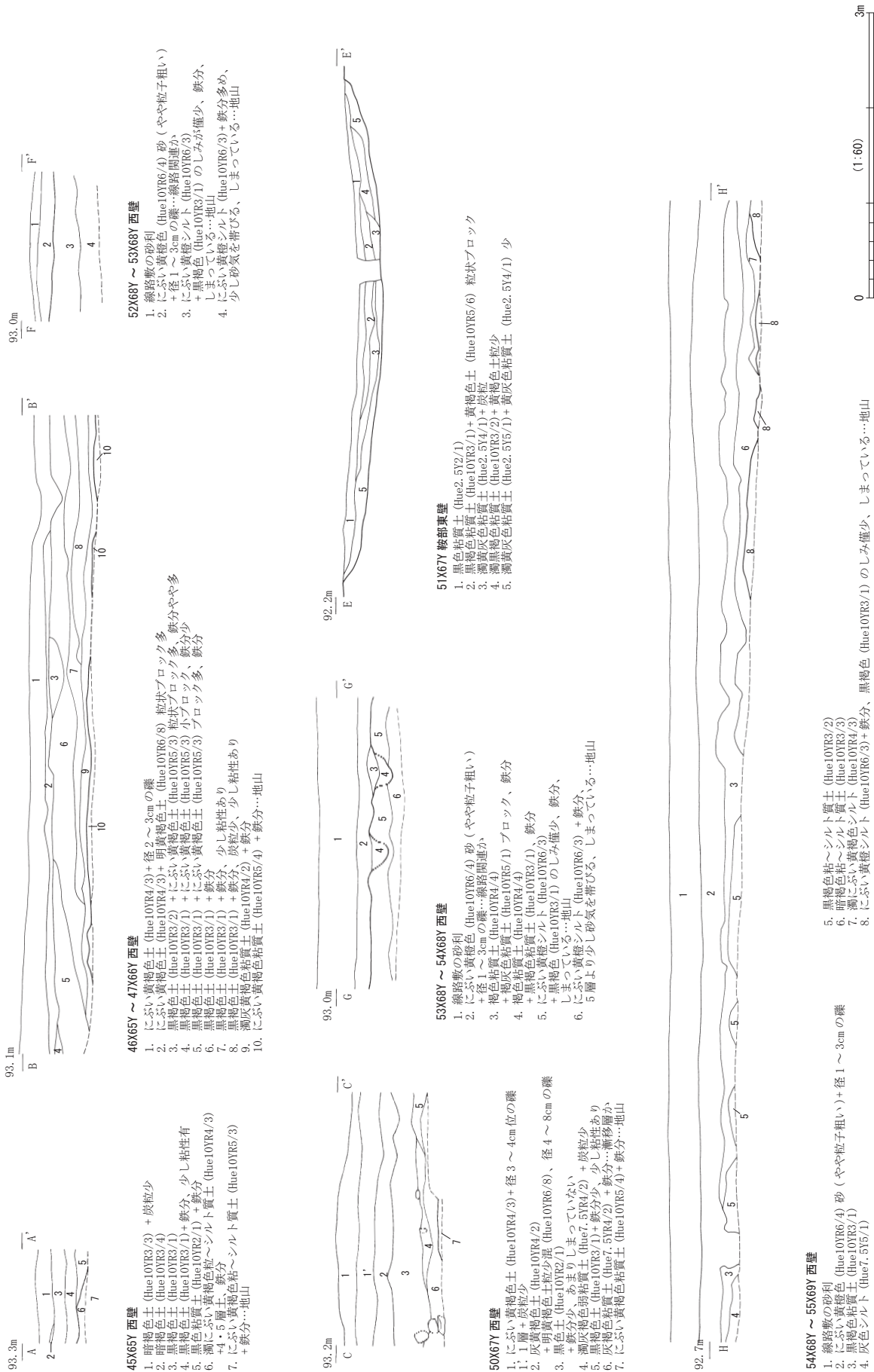
第2節 遺構と遺物（第5~12図、図版1~4、第2表）

SB01 50X67Yグリッドに位置する。調査区外に延びる可能性があり、全体プランは明らかではないが、南北2間（6.30m）、東西1間（2.88m）以上の規模を持つ。長軸方位は真北から15度西に傾きを持っている。柱穴は略円形および楕円形の掘り方を持ち、径43~54cm、深さ17~46cmを測る。

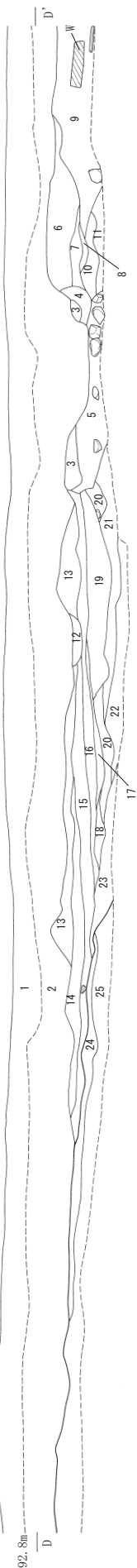
SB02 49・50X67Yグリッドに位置する。調査区外に延びる可能性があり、全体プランは明らかで



第5図 調査区全体図 (S=1/250)



第6図 基本層序1・遺構実測図1 (S=1/60)



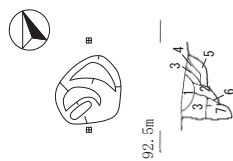
51X67Y ~ 52X67Y 真壁

1. にぶい 黄褐色土 (hue10YR5/3)+ 径 3 ~ 6 cm の礫
2. 黒褐色土 (hue10YR6/3)+ 径 20 cm 以上の礫多
3. 黒色土 (hue10YR2/1)+ 鉄分少、炭粒僅少
4. 黒色土 (hue10YR2/1)
5. 黒色土 (hue10YR2/1)+ 径 0.5 ~ 2 cm の礫多、少し粘性あり
6. 黒色土 (hue10YR2/1)+ 鉄分少
7. 黒色土 (hue10YR2/1)+ 鉄分少
8. 7層土 + にぶい 黄褐色砂 (hue10YR5/4)
9. 黒褐色土 (hue10YR3/1)+ 径 1 ~ 3 cm の礫多、径 20 cm 程度の礫

10. 黒褐色土 (hue10YR3/1)
鉄分少、径 1.5 cm 程度の礫、やや粘性あり
11. 濁黒褐色土 (hue10YR3/2)+ 10 層土、鉄分少、やや粘性あり
12. 黒色土 (hue10YR2/1)+ 鉄分少、炭粒僅少
13. 濁黒褐色土 (hue10YR3/1)+ 黄褐色土 (10YR5/6) 粒状ブロック
14. 黒色土 (hue10YR2/1)+ 鉄分、やや粘性あり
15. 黒褐色土 (hue10YR3/1)+ 鉄分
16. 黒色土 (hue10YR2/1)+ 鉄分
17. 黒色土 (hue10YR2/1)+ 鉄分やや多、16層より砂気を帯びる
18. 黒色土 (hue10YR2/1)+ 鉄分少

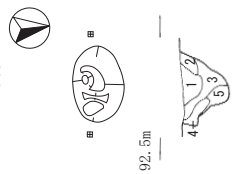
19. 黒褐色土 (hue10YR3/1)+ 鉄分、少し粘性あり
 20. 黒褐色土 (hue10YR3/1)+ 鉄分やや多
 21. 黒色土 (hue2.5Y2/1)+ 鉄分少
 22. 黒色土 (hue10YR2/1)+ 鉄分僅少、やや粘性あり、少ししまっている
 23. 濁黒褐色土 (hue10YR3/2)+ 鉄分、少ししまっている
 24. 灰黄褐色土 (hue10YR4/2)+ 黒褐色土 (hue10YR3/1) 少、鉄分
 25. にぶい 黄褐色土 (hue10YR5/3) 土 + 黒褐色土 (hue10YR3/1) 少、鉄分、やや粘性あり
- (1 ~ 11: 鉄道関係の掘削か)

P02



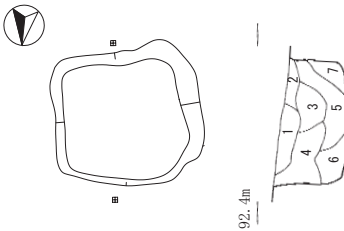
1. 黒色粘質土 (hue2.5Y2/1)
2. 黄褐色粘質土 (hue2.5Y5/3)
3. 黒褐色粘質土 (hue2.5Y3/1) 少
4. 黒褐色粘質土 (hue2.5Y3/1) 少 + 黄褐色粘質土 (hue2.5Y5/3) 少
5. 濁黒褐色粘質土 (hue2.5Y3/1) 少 + 黒褐色粘質土 (hue2.5Y3/1) 少
7. 黒褐色粘質土 (hue2.5Y3/1) + 黄褐色粘質土 (hue2.5Y5/3)

P05



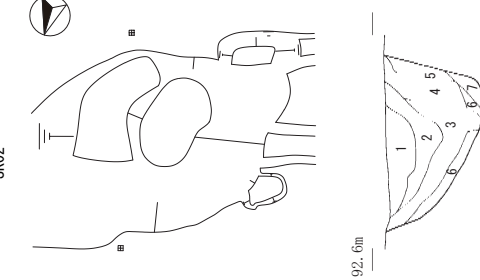
1. 黒色粘質土 (hue2.5Y2/1)
2. 黒褐色粘質土 (hue2.5Y5/3) ブロック少
3. 黄褐色粘質土 (hue2.5Y3/1) ブロック
4. 黒褐色粘質土 (hue2.5Y3/1) ブロック多
5. 黒褐色粘質土 (hue2.5Y3/1) 少 + 灰黄色粘質土 (hue2.5Y6/2) + 黒褐色粘質土 (hue2.5Y3/1)

SK01



1. 黒色粘質土 (hue2.5Y2/1) + 黄灰色粘質土 (hue2.5Y4/1) ブロック多
2. 黒色粘質土 (hue2.5Y2/1) + 黄灰色粘質土 (hue2.5Y4/1) 小ブロック少
3. 黒色粘質土 (hue5Y2/1) + 黄灰色粘質土 (hue2.5Y4/1) ブロック
4. 黒色粘質土 (hue5Y2/1) + 黄灰色粘質土 (hue2.5Y4/1) ブロック少
5. 黒色粘質土 (hue5Y2/1) あままりしまっていない
6. 黒色粘質土 (hue2.5Y2/1) + 黄灰色粘質土 (hue2.5Y4/1) ブロックやや多
7. 黒色粘質土 (hue2.5Y2/1) + 黄灰色粘質土 (hue2.5Y4/1) 小ブロック少 あままりしまっていない

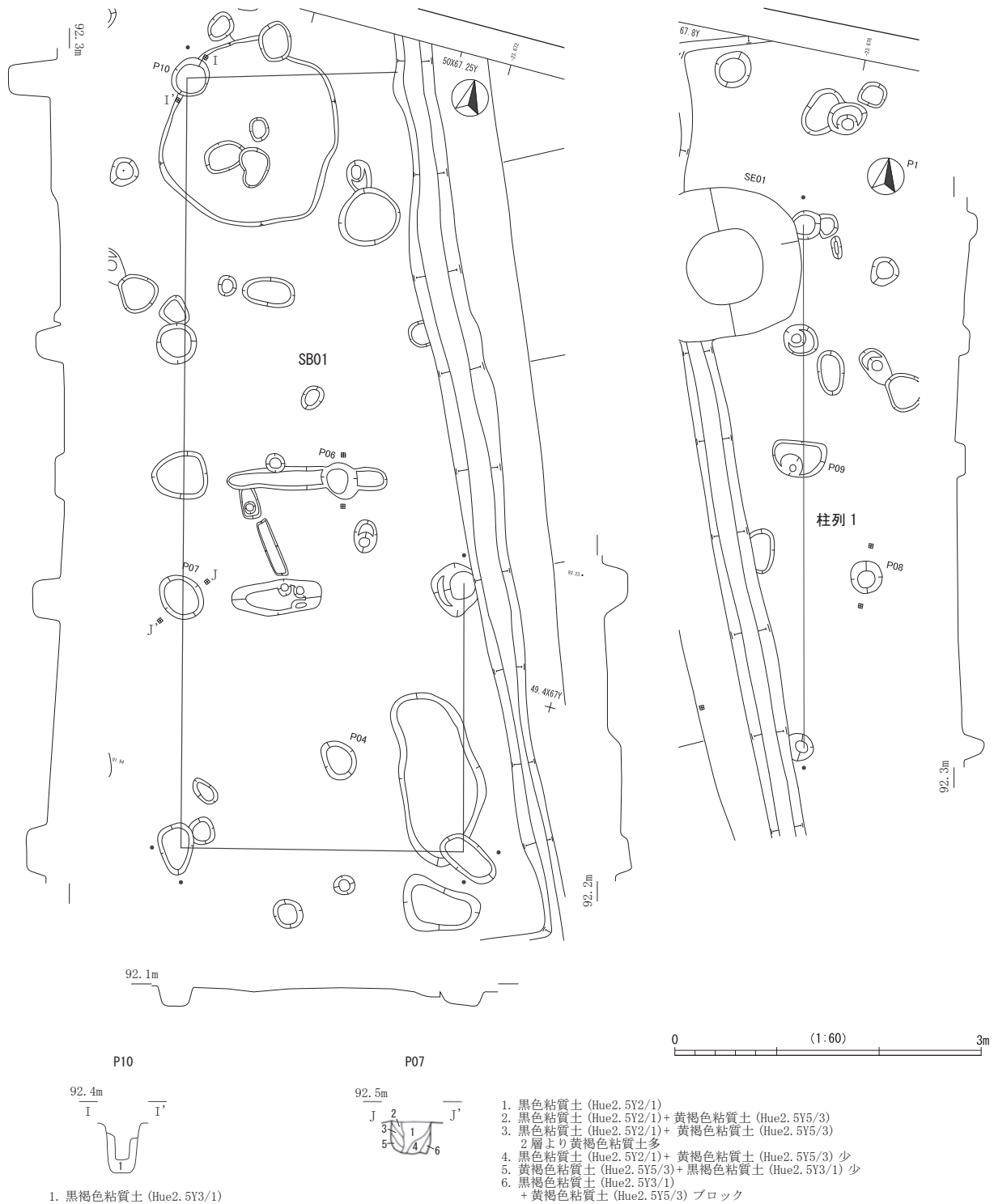
SK02



1. 黒褐色土 (hue10YR2/1) + 明黄褐色土 (hue10YR6/6) 小ブロック少
2. 黒褐色土 (hue10YR3/2) + 明黄褐色土 (hue10YR6/6) 少、少し軟
3. 黒褐色シルト (hue10YR3/2) + 明黄褐色土 (hue10YR6/6) 少
4. 暗褐色土 (hue10YR3/4) 少し粘性あり
5. 濁褐色土 (hue10YR4/4)+3層土 僅少
6. 3層土 + 褐色土 (hue10YR4/4) ブロック
7. 濁褐色土 (hue10YR4/4)+3層土

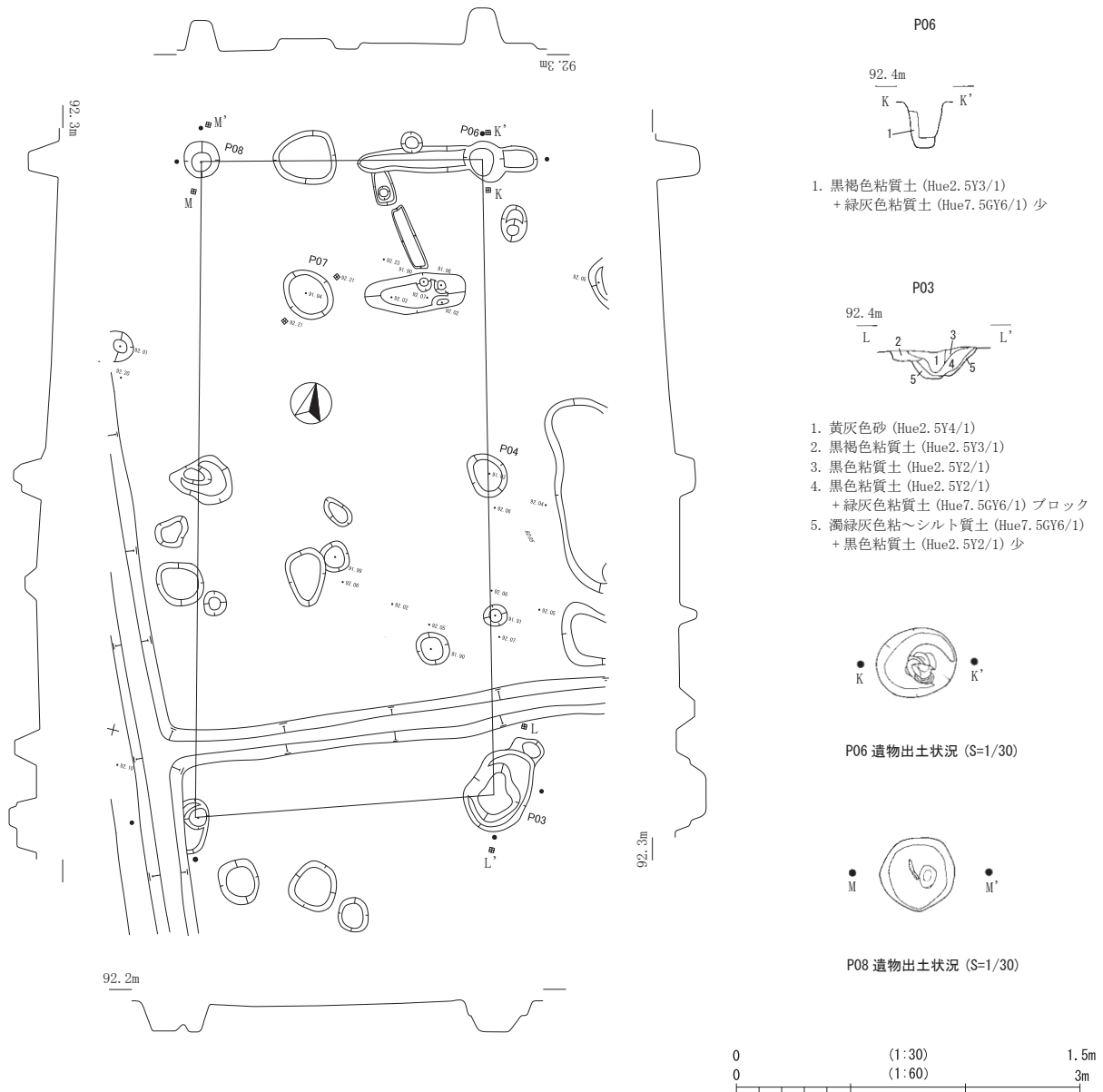


第7図 基本層序2・遺構実測図2 (S=1/60)



第8図 遺構実測図3 (S=1/60)

はないが、南北2間 (5.61m)、東西1間 (2.50m) 以上の規模を持つ。長軸方位は真北から16度西に傾きを持っている。柱穴は楕円形および略円形の掘り方を持ち、径37~82cm、深さ18~36cmを測る。柱穴P04・P06・P08より完形品を含む土師器皿が複数まとめて出土する状態が確認されており、建物撤去の際に埋納されたものと推定される。1~9を図化した。



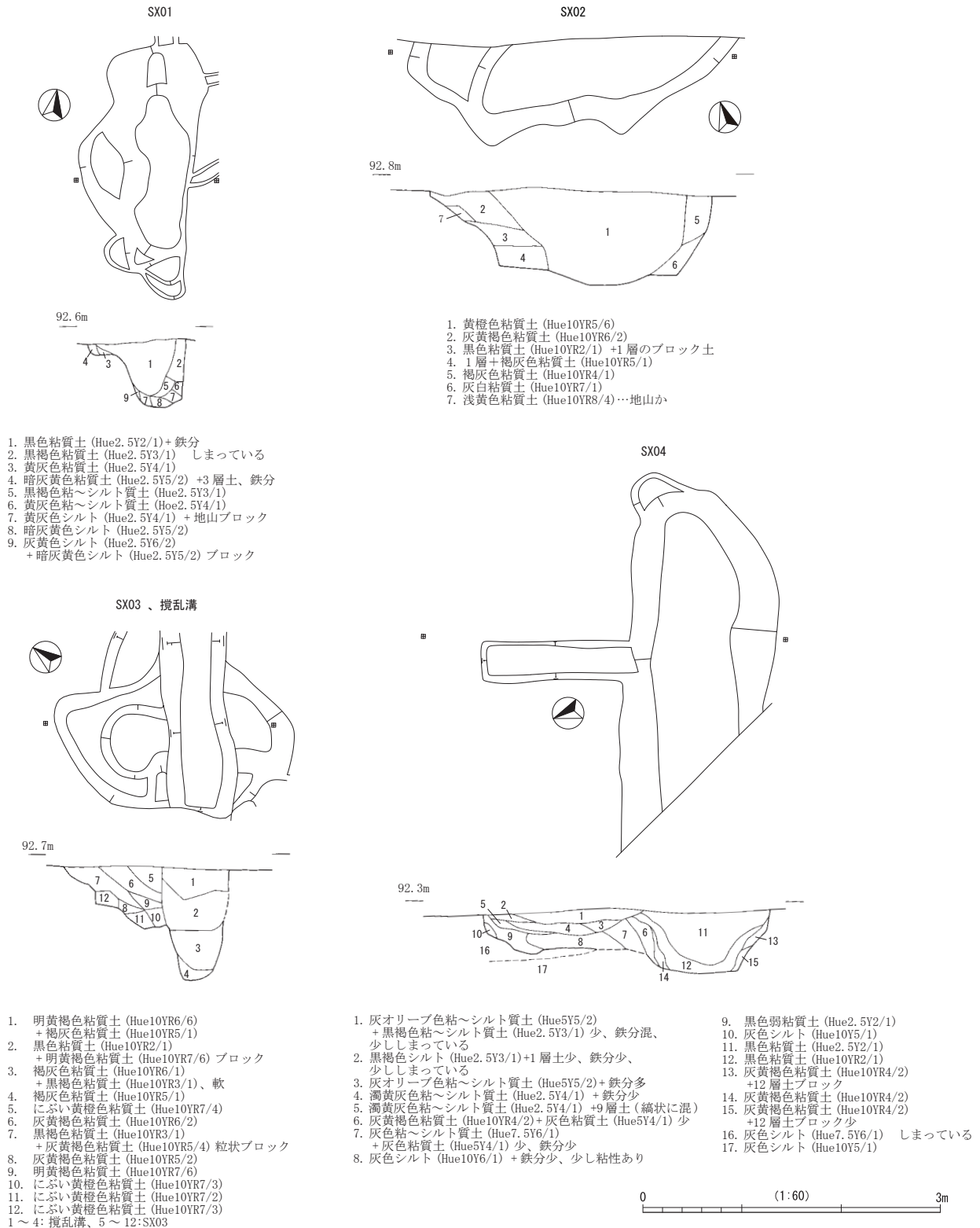
第9図 遺構実測図4 (S=1/30,1/60)

柱穴列1 50X67Yグリッドに位置する。南北2間(5.10m)以上の規模を持つ柱穴列。長軸方位は真北から11度西に傾きを持っている。柱穴は略円形および楕円形の掘り方を持ち、径32~58cm、深さ10~22cmを測る。

このほか、柱根W1が出土したP12など柱穴の可能性のある小穴が検出されているが、調査区が狭長なため、建物を復元するまでに至らなかった。

SE01 50X67Yグリッドに位置する。調査区端にかかるため、完掘できていないが、長径1.55m、短径1.52m程度の平面略円形プランの掘り方を持つと思われる、深さ130cmを測る。湧水による崩落のため断面図等詳細な記録を残せなかったが、覆土には黒褐色系粘質土の堆積が見られた。出土遺物では、須恵器坏蓋10、柄杓W2、柄杓柄W3、部材W4を図化した。この他図化できなかったものの、白磁碗の小片等も出土している。

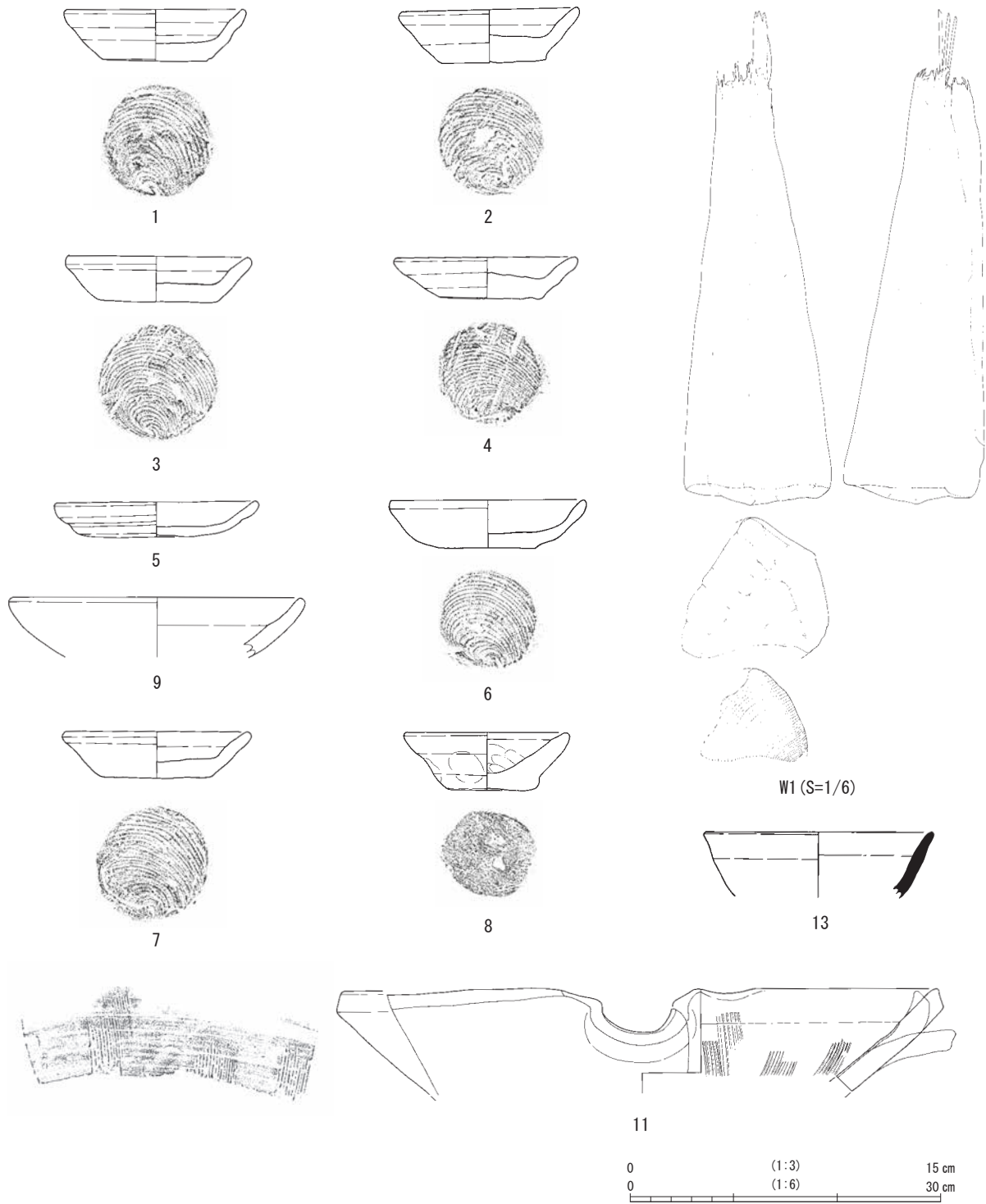
SK01 47X65Yグリッドに位置する。長径1.19m、短径1.09mの平面隅丸方形プランの掘り方を持ち、



第10図 遺構実測図5 (S=1/60)

深さ58cmを測る。珠洲焼播鉢11を図化した。

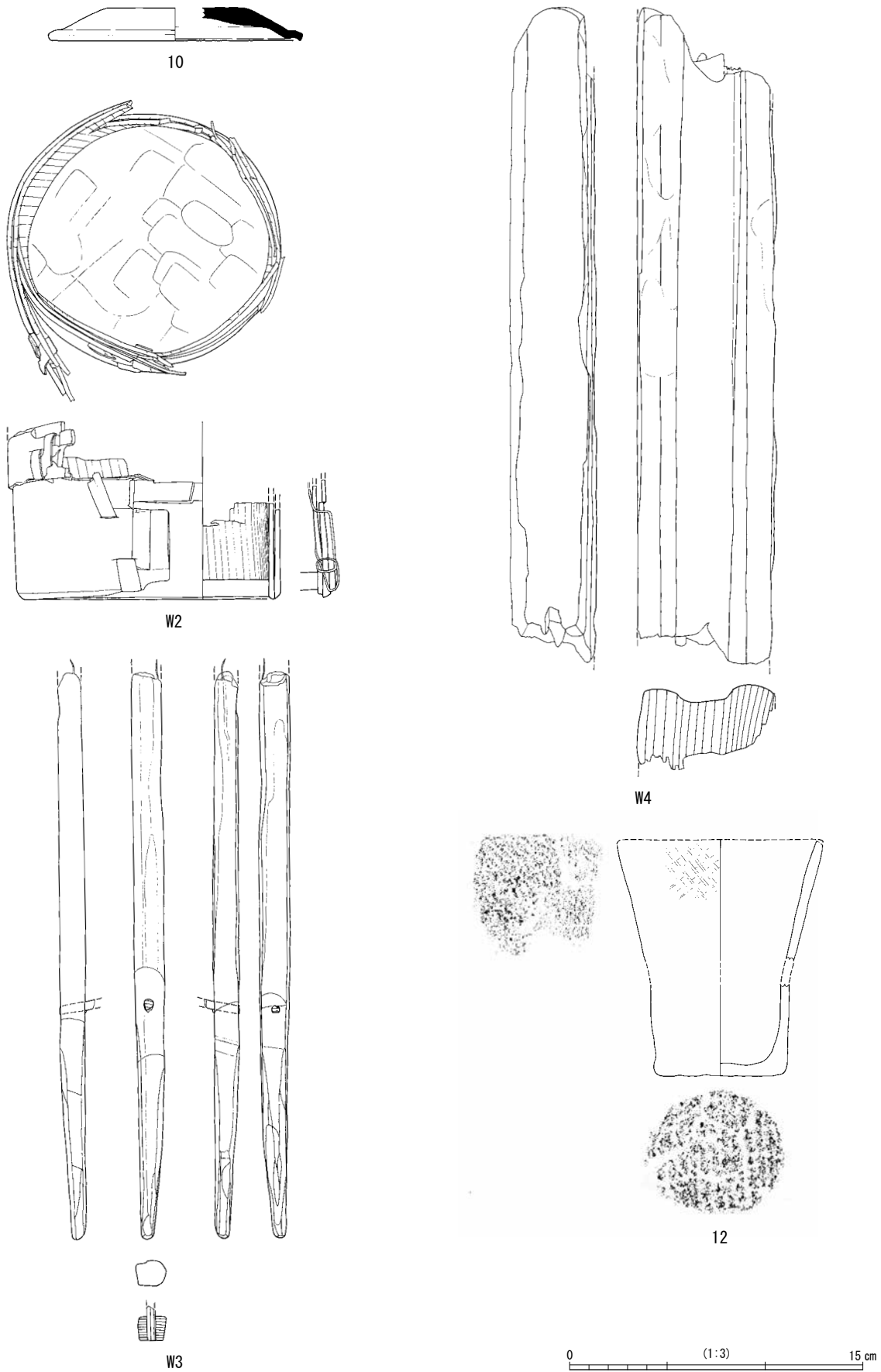
SK02 54X68Yグリッドに位置するが、東側はコンクリート側溝による攪乱を受け、全形は明らかでない。長径2.01m以上、短径1.43m、深さ76cmを測る。出土遺物は見られなかった。



第11図 遺物実測図1 (S=1/3,1/6)

鞍部 調査区中央付近の51X67~68Yグリッドに位置する。南西-北東方向で、幅5.2~7m、最深部での深さ40~50cmを測る。周辺で遺構密度が比較的高くなる傾向にある。出土遺物は多くなかったが、縄文土器の小型深鉢12、須恵器坏13を図化した。

その他 SX01~SX04は風倒木痕とみられる。うちSX03は溝による攪乱を受けている。



第12図 遺物実測図2 (S=1/3)

土器類

番号	実測番号	種別	器種	グリッド	遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
1	D-1	土師器	皿	50X67Y	P04	8.4	2.5	5	回転ナデ 底部-回転 糸切り	内、外 にぶい橙	粗砂 並 赤色粒あり	良	
2	D-2	土師器	皿	50X67Y	P06	8.4	2.6	5.4	ロクロナデ 底部-回転 糸切り	内-橙 外-にぶい 橙	粗砂 多 赤色粒あり	良	
3	D-3	土師器	皿	50X67Y	P06	8.7	2.2	5.8	ロクロナデ 底部-回転 糸切り	内、外 にぶい橙	粗		
4	D-4	土師器	皿	50X67Y	P06	8.5	2.05	5	ロクロナデ 底部-回転 糸切り	内、外 にぶい橙	粗砂、礫 多 海綿骨針 赤色粒あり	良	
5	D-5	土師器	皿	50X67Y	P06	9.5	1.7	6.8	ナデ、 底部-ナデ	内-にぶい 橙 外-橙	粗砂 多 海綿骨針 赤色粒あり	良	
6	D-6	土師器	皿	50X67Y	P06	9.3	2.3	4.6	ロクロナデ 底部-回転 糸切り	内-にぶい 黄橙 外-明黄褐	粗砂 多 赤色粒あり	良	
7	D-7	土師器	皿	50X67Y	P06	8.6	2.2	5.4	ロクロナデ 底部-回転 糸切り	内、外 橙	粗砂 多 赤色粒あり	良	
8	D-8	土師器	皿	50X67Y	P08	7.7	2.8	4.4	ナデ、 底部-不明	内、外 にぶい橙	粗砂 並 海綿骨針 赤色粒あり	良	
9	D-11	土師器	皿又は坑	50X67Y	P08	13.8	(2.9)	-	ロクロナデ	内、外 にぶい橙	粗砂 並 赤色粒あり	良	
10	D-13	須恵器	坏蓋	50X67Y	SE01	12.2	(1.65)	-	内-ロクロ ナデ 外-ロクロ ケズリ、ロ クロナデ	灰	粗砂 並	良	
11	D-9	珠洲	播鉢	47X65Y	SK01	28.5	(5.0)	-	ロクロナデ	内外 灰	粗砂 並 海綿骨針 多	良	
12	D-10	縄文	小型深鉢	51X67Y	鞍部 (南西)	10.3	(12.1)	6.5	内-ナデ 外-ナデ後 縄文	内外 にぶい赤 褐	粗砂 並 海綿骨針 あり	良	底部に網 代圧痕、 摩耗著しい
13	D-12	須恵器	坏	51X67Y	鞍部	10.9	(3.2)	-	ロクロナデ	内、外 黒灰	粗砂 多	良	

木製品

番号	実測番号	種別	器種	グリッド	遺構	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)
W1	木-2		柱根	50X67Y	P12	47.8	14.3	13.7
W2	木-1		柄杓	50X67Y	SE01	-	9.1	14
W3	木-4		柄杓の柄	50X67Y	SE01	29.6	1.6	1.3
W4	木-3		部材	50X67Y	SE01	33.5	7.1	4.3

第2表 遺物観察表

第4章 ま と め

遺構密度は総じて希薄な傾向にあるが、中央付近の鞍部周辺で井戸、掘立柱建物、土坑、小穴などを検出し、これらの遺構からは主に10世紀前半、12世紀中葉～13世紀前半の須恵器、土師器、珠洲焼等の遺物が出土した。建物については調査範囲が狭長であったことから、全体プランは不明であるが、一部で重複しており、継起的な建て替え関係にあると考えられる。しかし、SB02で複数の柱穴から完形の土師器皿が埋納された状況が見られたほかは、時期が明確な遺物が確認されず、各建物間の前後関係は不明である。また、鞍部より縄文土器が出土しているが、調査区内からは明確な縄文時代の遺構は検出されておらず、周辺からの流れ込みと考えられる。

引用・参考文献

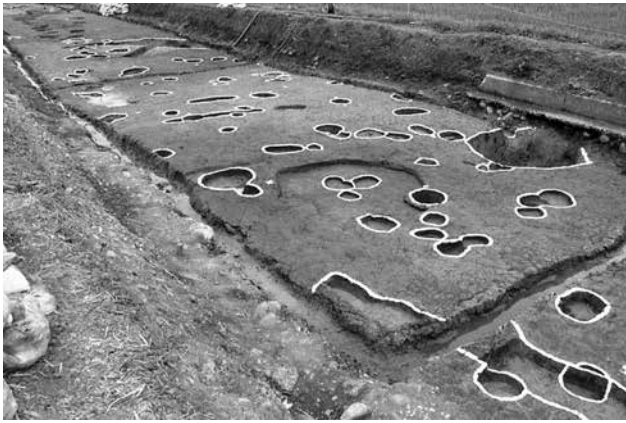
- 荒木麻理子 2007 『輪島市渡合遺跡-いしかわ広域交流幹線軌道路整備事業(主)七尾輪島線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-』 石川県教育委員会 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 石川県教育委員会 1992 『石川県遺跡地図』
- 角川日本地名大辞典編纂委員会編 1988 『日本地名大辞典 17 石川県』 角川書店
- 図説 輪島の歴史編纂専門委員会編 2003 『図説 輪島の歴史-市制施行50周年記念』 輪島市役所
- 若林喜三郎編 1991 『日本歴史地名大系 第17巻 石川県の地名』 平凡社



遺跡遠景（北から）



調査区全景（上から）



掘立柱建物・柱穴列



P07 土層断面



P03 土層断面



P06 土師器皿出土状況



P08 土師器皿出土状況



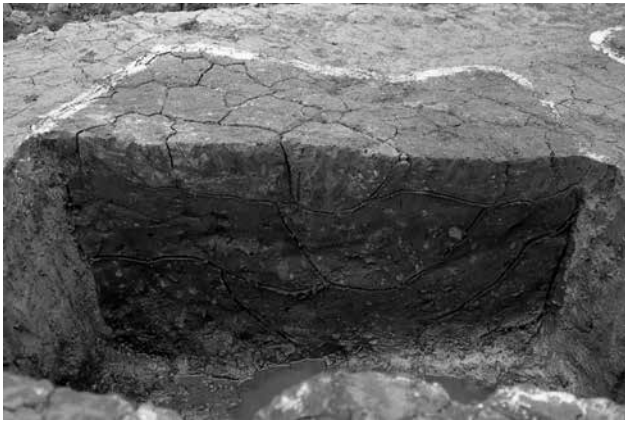
P02 土層断面



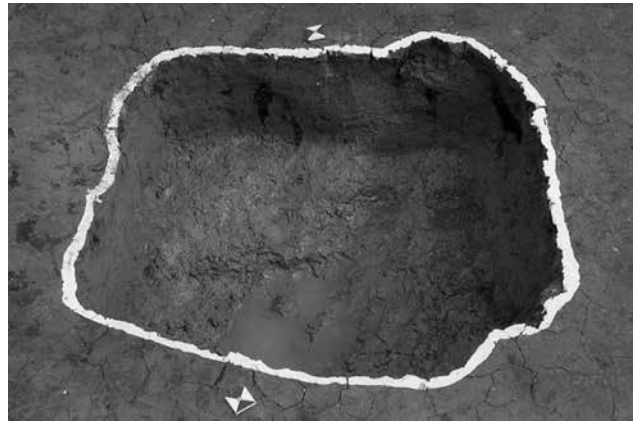
P05 土層断面



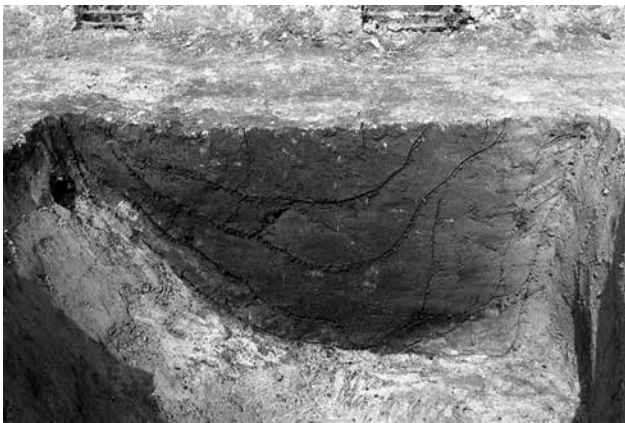
SE01 完掘状況



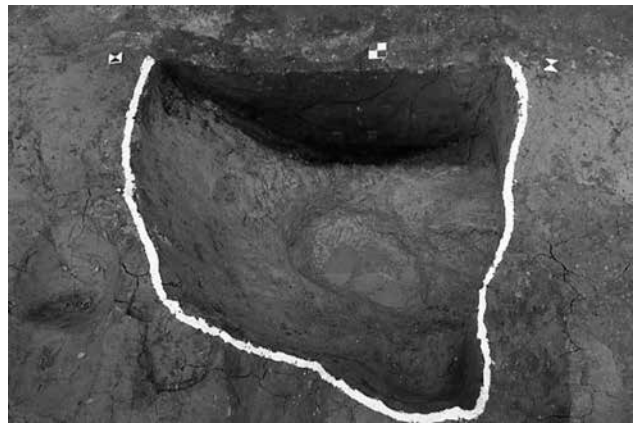
SK01 土層断面



SK01 完掘状況



SK02 土層断面



SK02 完掘状況



鞍部土層断面



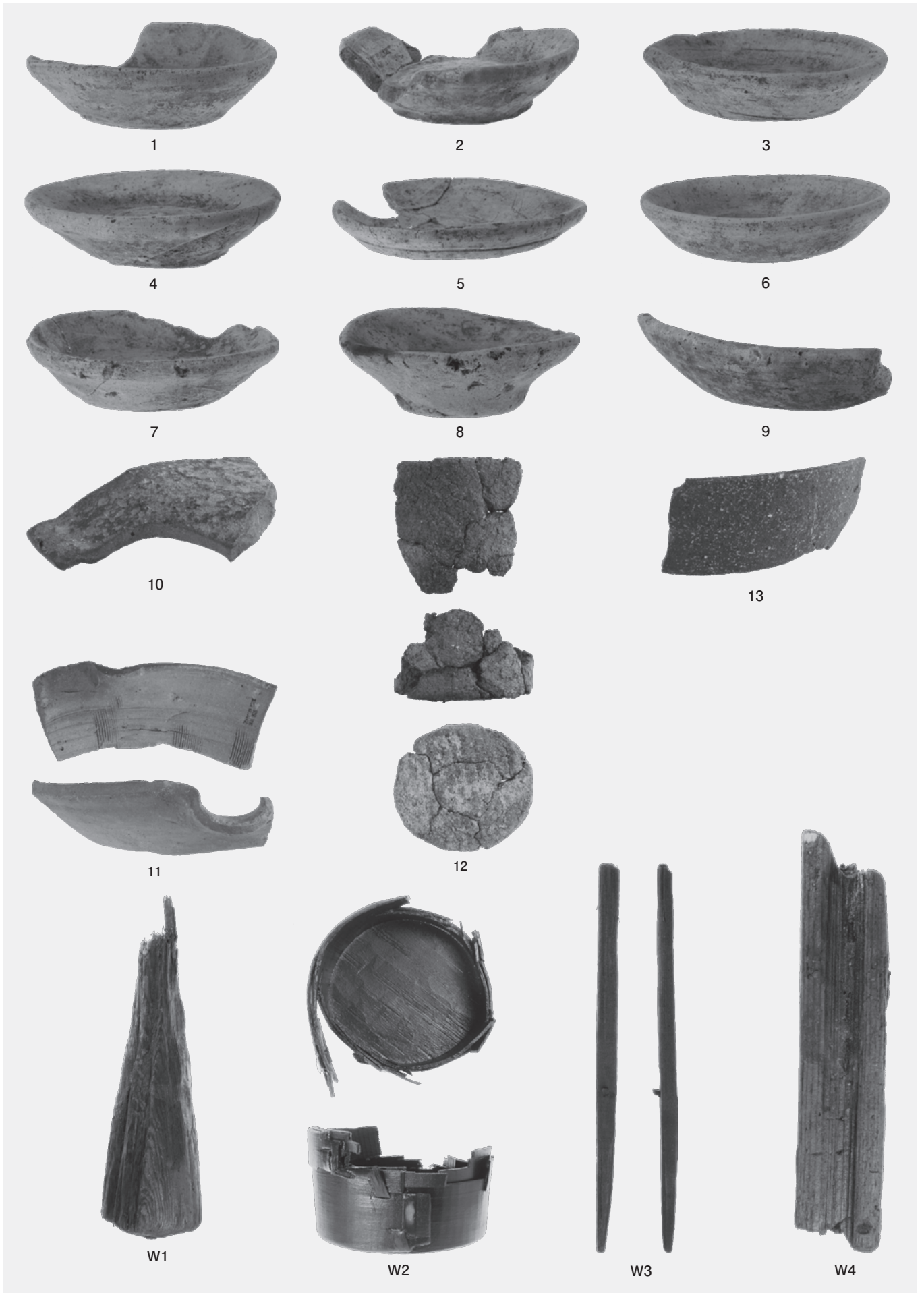
鞍部完掘状況



SX01 土層断面



SK03 土層断面



報告書抄録

ふりがな	わじましこうとくじBいせき							
書名	輪島市興徳寺B遺跡							
副書名								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	荒木麻理子							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL (076) 229-4477 FAX (076) 229-3738							
発行機関	石川県教育委員会、財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	西暦2011年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 (新)	東経 (新)	発掘期間	発掘面積	発掘原因
興徳寺B遺跡	いしかわけん 石川県輪島市 三井町興徳寺 地内	17204	04010	37° 19' 12"	136° 53' 58"	20090511~ 20090629	950m ²	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
興徳寺B遺跡	集落	平安時代 鎌倉時代	掘立柱建物、 井戸、土坑、小穴	土師器、須恵器、 珠洲焼、木製品				
要約	井戸、掘立柱建物、土坑、小穴などを検出し、主に10世紀前半、12世紀中葉~13世紀前半の遺物が出土した。建物については全体プランが不明であるが、一部で重複しており、継起的な建て替え関係にあると考えられる。							

輪島市 興徳寺B遺跡

発行日 平成23年3月31日

発行者 石川県教育委員会
〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1842 (文化財課)
(財)石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477
E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 鶴川印刷株式会社